

日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院
(旧 名古屋第二赤十字病院)で
診療を受けられる患者さんへ
 ～臨床研究に関する情報公開について～

当院では、下記の研究を実施しております。

本研究の対象者に該当する可能性のある方で、カルテ情報等の診療情報を研究目的に利用されることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象とはしませんので、下記の問い合わせ先にご連絡ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。また、研究の詳細についてお知りになりたい場合も、下記の問い合わせ先にご連絡下さい。なお、研究の詳細については、他の研究対象者等の第三者の個人情報や知的財産の保護に支障がない範囲内での開示となります。

研究課題名	腎性副甲状腺機能亢進症に対する術式の検討		
研究実施期間	院長が研究実施を許可した日 ～ (西暦) 2027年12月		
研究実施診療科	移植・内分泌外科		
研究の倫理審査等	治験・臨床研究審査委員会審査日	2018年5月28日	
	院長が研究実施を許可した日	2018年5月29日	
対象となる方	(西暦) 2000年1月 ～ (西暦) 2021年12月に、当院移植・内分泌外科において、腎性副甲状腺機能亢進症に対して治療を受けた方		
主たる研究実施機関	日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院 移植・内分泌外科 (研究代表者氏名：平光 高久)		
共同研究機関	Manchester Royal Infirmary Department of Transplants (責任者：Titus Augustine)		
当院の研究責任者	所属	内分泌外科	氏名 平光 高久
研究の意義	腎性副甲状腺機能亢進症に対して、当院では副甲状腺全摘術＋胸腺摘出術＋前腕筋移植術を定型術式として行っている。一方、イギリスのManchester Royal Infirmaryでは副甲状腺全摘術のみである。当院の術式は、二次性副甲状腺機能亢進症に対しては術後の移植腺機能が良好である。しかし、腎移植後副甲状腺機能亢進症では、術後の移植副甲状腺の生着が不良で、副甲状腺機能低下症を認めることが多い。そのため、どちらの術式が、二次性副甲状腺機能亢進症、腎移植後副甲状腺機能亢進症に対して適切かを検討します。		
研究の目的	副甲状腺全摘術＋胸腺摘出術＋前腕筋移植術または、副甲状腺全摘術の病態別の術式の適応について検討を行います。		
研究の方法	対象となる方の臨床情報について、診療録を振り返って収集し、集められた情報を研究代表者が解析します。		
研究に使用するもの	診療録から得られる情報を、匿名化した上で使用します。(年齢、体重、性別等の基本情報、腎移植後副甲状腺機能亢進症治療の情報、採血デ		

	ータ、入院日数等)
結果の公表	関連学会や学術論文等で発表予定です。対象者の氏名等の、直ちに個人を特定できる情報を公表することはありません。
個人情報の保護	対象者の方の情報の使用に際しては、氏名や住所等といった個人を直ちに特定できるような情報とは切り離し、対象者個人とは無関係の番号を付けた上で、研究責任者の責任の下、廃棄するまで厳重に保管・管理します。
研究の資金源	本研究は特に資金を必要とせず、外部からの資金提供もありません。
利益相反	本研究の実施にあたり、研究の透明性や公正性を損なうような利益相反はありません。
情報等の二次利用	本研究で得られた情報は、本研究の目的以外には使用しません。
問い合わせ先	日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院 移植・内分泌外科 平光 高久 電話 052-832-1121 (代表)